

海産無脊椎動物の幼生生態学

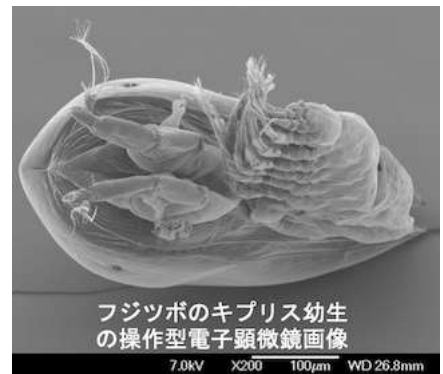
教員名：頼末武史

連絡先メールアドレス：yorisue <at> hitohaku.jp

◎ どのような研究をされていて、どんなことに役立つのか？

海産無脊椎動物の多くは幼生期に海の中を移動し、「好適」な生息場所を選択していることが知られています。この過程は、ヒトに例えると“家探し”に近いかもしれませんが。皆さんも長く住む家を決める際は、価格や間取り、通勤・通学場所への距離等、様々な条件を頼りに「好適」な家を選択するはずです。私は大学院生の時に小さな幼生が広大な海の中で巧みに“家探し”をしていることに感動し、これまで研究を続けてきました。具体的には、フジツボを対象に幼生の形態観察や幼生誘引フェロモンの遺伝子解析、捕食者の匂いの影響を調べるための野外実験などを行ってきました。このような研究は、フジツボのような付着性生物が船舶等の人工物に着かないようにするための技術開発にも繋がる事が期待されます。

また、外来種の侵入・拡大機構に関する研究や様々な分類群の生物（サンゴ、ヤシガ二等）を対象にした共同研究を展開しています。



◎ 主な研究業績

- 1) 《幼生着生機構の研究》 Yorisue T, Matsumura K, Hirota H, Dohmae N, Kojima S (2013). Possible molecular mechanisms of species recognition by barnacle larvae inferred from multi-specific sequencing analysis of proteinaceous settlement-inducing pheromone. *Biofouling* 28:605-611.
- 2) 《外来種の侵入・拡大機構の研究》 Yorisue T, Ellrich JA, Momota K (2019) Mechanisms underlying predator-driven biotic resistance against introduced barnacles on the Pacific coast of Hokkaido, Japan. *Biological Invasions* 21:2345-2356.

◎ 学生に向けて一言

海洋生物の生息場所探索の過程にはまだまだ未解明な領域が多く、興味深い研究テーマで溢れています。興味のあるテーマがあれば全力でサポートします。興味のある方はお気軽にご連絡下さい。